

食事時のコロナ対策

With コロナ時代です。その対策として、マスク、手の消毒、距離、換気、が基本として欠かせません。

しかし、友人・知人との会食、食事を伴うパーティでは、マスクを外さざるを得ません。

そこで食事時のコロナ対策として、着席の仕方の工夫が報じられています。(次ページの記事参照)

また、フィンガーマスクを開発し、奨励している人もいます。

https://www.chugoku-np.co.jp/animation/article/article.php?comment_id=13976&comment_sub_id=0&category_id=41&fbclid=IwAR1dEgwXe51MGHKAQAuiJPF0gFLi7zrVn7vuxeN4uxTL8a1Kz8M8BO7l7Ro

これに対し原野は、扇子（または小型うちわ）が同じ効果が期待できると、推奨しまくっています。(Facebook、ライン、口コミを通して) よかったら皆さんも実践してみてください。

「おほほ・・・」「まろは・・・」「恥ずかしい」と言う人もいますが、原野の周りでは食事会に扇子持参者が増えています。With コロナを真剣に考える人ほど。マスクが使えない食事会が一番問題なので。

この記事を読まれた方、もしよければ、周りの方々にこのサイトをご紹介していただいたらいかがでしょうか。

感染リスクを下げるには？ 政府の分科会資料から

複数での飲食

- 正面や真横の席は空け、斜め向かいに座る
- コップやはしを使い回さない
- 会話時はなるべくマスク着用
- 体調が悪い人は参加しない
- 少人数、短時間で、普段一緒にいる人と
- はしと酒は控える



外出時

• 車やバスでの移動中もマスク着用

仕事

• 休憩や喫煙、着替え時は気が緩みやすく、会話や距離に注意

大の学生は居酒屋での飲み
 スに通う学生からも、11人の感染が出ている。立命館
 大の学生は居酒屋での飲み
 確認されない日も多かった
 が、今月7日から1週間連
 続で発表され、13日までの

会食は対角線 飛沫軽減

冬は忘年会や親戚の集まりなど、会食が多くなる季節だ。会話するだけでも口から細かいしぶき（飛沫）が飛ぶため、新型コロナウイルス感染予防に注意が必要になる。理化学研究所などのチームは、スーパーコンピュータ「富岳」を使い、飛沫がかりにくい座席の配置などを計算している。普通に話したり、歌ったりする時にも注意が必要だ。スパコン富岳のシミュレーションでは、1分

スパコン富岳で計算

会話20分せき1回に匹敵

の通常会話では飛沫約900個、歌は約2500個が出る計算になる。会話も約20分続ければ、せき1回に匹敵する飛沫の量になる。歌う時は会話に比べ飛沫量が数倍になり、より速くまで飛ぶ。実際、飲食店やカラオケでの集団感染も確認されている。同じテーブルで会食する際は、対角線上に座るのが良いようだ。富岳の計算では、飲食店にある平均的な4人掛けのテーブルに2人ずつ向き合った場合、対角線上に座った人に届く飛沫の数は、真正面の人の4分の1程度だった。隣の人の方を向いて話すと届く数が多くなり、真正面の人の約5倍になる計算となった。研究チームは、カウンターで隣り合って座る場合は、席の正面に鏡を置き、鏡越しに会話するなどの工夫を例示している。 (杉浦泰実)